



読書力をつけよう

私の子どもの頃、昭和20年代は、テレビやパソコンゲームは言うに及ばず、CDの音楽などまるでなかった。子どもの遊びと言えば、かくれんぼ、缶蹴り、木登りなど外で遊ぶ事が多かった。しかし高学年になるとつまらなくなり、子どものたまり場だった貸本屋で、本を借りて読む楽しさを覚えた。自分の家には絵本くらいしかなかったが、貸本屋や、学校の図書館には世界や日本の文学全集をはじめ、あらゆるジャンルの沢山の本が並んでいて、むさぼり読んだ覚えがある。

いつの頃からか〇〇力という言葉が使われ出した。注目を浴びたのは「老人力」だったと記憶している。加齢により「ものを忘れやすくなった」とか、「足腰が弱くなった」とか老人らしくなっていくことを明るく表現した言葉だった。「男子力」「女子力」という言葉からも男子らしさ、女子らしさがイメージできて便利な言葉であると思った。

齋藤孝著「読書力」という新書版が出たのは2002年である。読書力とはどのようなことを意味するのか興味を感じて読んでなるほどと思った。私にとって読書は人生の師であり、自己形成に大いに影響を受けている。思春期から青年期にかけて悩み多い年頃に、読書によって、救われたことが多い。また世の中には自分の知らない世界があり、自分が如何にちっぽけな存在であるかを思い知らされ、学習の動機付けにもなった。

齋藤孝氏によると、読書力は人間理解力であり、コミュニケーション力であるといっている。「読書力がある」ということは読書習慣があり、読書が苦にならず、日常で何気なく読書が出来る力ともいっている。そして読書力があることの基準を、「文庫系100冊・新書系50冊読んだ」というラインを決めている。ここでいう文庫本は推理小説や完全な娯楽本をのぞいたもので、「精神の緊張を伴う読書」で名作や文学作品などである。特に様々な名作を読んでいることを読書力の一条件としている。また、新書はテーマに対する知識体系が集約されており、新書を読む事が読書力の重要なラインだともいっている。そして読書習慣をつけるのにまず100冊を4年間で読むことをすすめている。

読書は著者と一対一で向き合うことであり、著者の言いたいことを読み取る努力が必要である。著者と対話することにより、著者の考えを独り占めでき、自分の考えも刺激され、思考力がつく。講演を聴くことやテレビを見るのとは異なり、自分から能動的に働きかけなければならない。積極的に本と向かうことで自分の世界をつくる事ができる。私は、1年生の教養ゼミの担当学生に、大学在学中に100冊の本を読むことを提案している。教科書、専門書以外の本を1年間で25冊、1ヶ月で2冊、2週間で1冊を読めば4年間で約100冊になる。本を読む習慣は若いときにつけるべきで、年を取ると面倒くさくなる。大学生として常に文庫本または新書を、鞆に入れて持ち歩いている姿は格好いいと思うのだが。

本を読むか読まないかは人それぞれそれぞれであるが、看護も福祉も人を相手にする仕事である。相手を理解する力や相手とのコミュニケーション力は常に鍛えておく必要がある。読書力をつけることは人間理解力をつけることに繋がり、その努力が自己理解を助ける。読書を習慣づけることは、結局、人間力の向上にもつながるのではないかと思われる。図書館は知識の宝庫であり、図書館を大いに利用されて、悔いのない大学生を送られることを切に願っている。



看護学研究科長
看護学部長
看護学部 教授 小野 ツルコ



読書力

DATA 齋藤孝 著
岩波書店
2002年9月刊



新任教員による 著書紹介

ドクトル外交官世界を診る

社会福祉学部 教授 勝田 吉彰

元職、外務省医務官としてフランス・セネガル・中国に在動していたあいだ、雑誌に掲載したものに加筆修正したものです。

フランスでは、アフリカ公館の支援として定期巡回検診や緊急出張として地中海を越えて行き来していました。テロリストが攻勢を極めていたアルジェリアで護衛付き防弾車に押し込まれ全力疾走したりしたのも思い出です。

セネガルでは、アフリカ伝統的治療師と出会う縁があり、その治療儀式を見に行く機会を得たり、青年海外協力隊の皆さんとおつきあいさせていただきました。

中国では、SARS流行のど真ん中で邦人社会のリスクコミュニケーションにあたり、大使館に駆け込んでくる脱北者の皆さんのお世話に奔走したり・・・

そんなこんな、目の前に展開する現実に関与しながらの観察記です。ご覧いただけると幸いです。



DATA

勝田吉彰 著
星和書店
2008年7月刊

新任教員による おすすめ本



DATA

佐藤学 監修・
ワタリウム美術館 編
ACCESS
2011年4月刊

驚くべき学びの世界 —レッジョ・エミリアの幼児教育

社会福祉学部 教授 半田 結

北イタリアの小都市レッジョ・エミリアは、そのユニークな幼児教育によって世界中に知られており、その特徴はアートの創造的経験によって子どもの潜在的可能性が最大限に引き出されているところにあります。

本書はワタリウム美術館で開催された展覧会「驚くべき学びの世界」展のカタログですが、豊富な写真からは子どもたちの日々の学びの様子が鮮やかに伝わり、私たちが学びのワンダーランドへと誘います。

DVDで学ぶ 身体侵襲を伴う看護技術

看護学部 教授 掛橋 千賀子

本書は、基礎看護技術の中の「身体侵襲を伴う技術」の一部を取り上げたテキストと、それを映像化したDVDが一緒になったものです。学生がテキストとDVDの映像を見ながら、技術のイメージ化を図りながら学べるというマルチメディア型の教材です。看護技術教育では、学生は、教員が実施するデモンストレーションを見て真似をしてやってみるという学習方法がよく行われます。しかし、デモンストレーションは、その時だけのもので、繰り返し練習をしたいと思いますとも手順を思い出し技術化していくには無理があると思われる。DVDならパソコンで手軽に見ることが出来ますので自宅でも反復学習が可能です。予習や授業、技術テスト・実習前などの活用方法も紹介していますので、一読いただければ幸いです。



DATA

掛橋千賀子・真嶋由貴恵・
奥山真由美 著
医学書院
2006年4月刊

新看護観察のキーポイントシリーズ

急性期・周手術期 I 急性期・周手術期 II

看護学部 准教授 古米 照恵

「看護は観察で始まり観察で終わる」しかし臨床の現場で、いったい何を、どのように観察したらよいのでしょうか。そして、観察したことを、いかに看護ケアに結びつけたらよいのでしょうか。

エキスパートといわれるナース、患者やチームメンバーに信頼されているナースの観察はどう行われているかを、臨場感をもって伝えるのが本書の目的です。

執筆者はすべて経験豊富なナースです。身につけているさりげない行為、看護の行為を言語化することに挑戦しました。しかしとても難しかったです。本書に書いてある内容の行間に、ベテランの「ワザ」を感じ取っていただければ幸いです。



DATA

富田幾枝 編
中央法規出版
2011年1月刊



DATA

とくながまり・みやざわはるこ 作
アリス館
1996年11月刊

なあいなあいあった —ゆうちゃんは1さい ②—

社会福祉学部 助教 三好 伸子

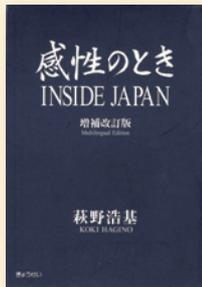
保育園の実話をもとに、保育園の子ども様を描いた絵本です。幼い子どもの気持ちや、周りの友達のしぐさなども丁寧に描写されていて、とてもほほえましい絵本です。保育園に実習に行く前には、ぜひ読んでみてください。

そして、このシリーズは、主人公のゆうちゃんが、2歳児になったと想定して、「ゆうちゃんは2さい」シリーズの「じぶんでじぶんで」「できたよできたよ」「ぶらぶらさんぽ」と続きます。自分で着替えができるようになった喜びや、保育園でのお散歩の様子がリアルに描かれていて、おすすめです。

感性のとき 増補改訂版

看護学部 特任教授 國岡 照子

大規模震災以来、混沌とした時代に生きるための生と死へのまなざしで何が大切かを問い続け胸を痛めていたら、かつて学部創設にかかわったことのある東北福祉大学の学長、萩野浩基氏の『感性のとき』を献本いただき感銘を受けた。萩野氏は東日本大震災で被災し、現在未だに仮住まいを余儀なくされている。地震や津波は自然現象であり天災であるが、放射線問題は人間が生み出したすべてを巻き込む人災で歴史的な課題であると考え、その責任は決して忘れてはいけない。萩野氏は元国会議員でもあり、今の政局の混迷ぶりに大きな一石を投げ、日本、そして世界の新未来への糧とし、新たな新エネルギーを目指すべきと切実に訴えている。自ら震災に遭遇した弱者の視点で述べていて、生きる上での感性と叡智にあふれている。なお同書はオックスフォードのライブラリーの保存本ともなっている。



DATA
萩野浩基 著
ぎょうせい
2012年3月刊



DATA
渡辺和子 著
幻冬舎
2012年4月刊

置かれた場所で咲きなさい

看護学部 准教授 中西 代志子

著者は、ノートルダム清心学園理事長をされている85歳のシスターです。シスターは2・26事件で暗殺された教育総監・渡辺錠太郎氏を父とされる方です。ストレスの多い現代人が陥りやすい不安・迷い・怒りなど自分が見えなくなりそうな時に心を落ち着かせ、安らぎを貰えると思います。短い節の中で、語りかけられるような一つひとつの内容は、忙しい中にある時ほど、ホッとする時間を与えられるでしょう。「失ったものを嘆いても前には進めない。悩みを抱えている自分をいとおしもう」私が励まされる言葉の一つです。

大人が絵本に涙する時

看護学部 助教 西村 夏代

最近、寝る前、子どもに絵本を読み聞かせることが日課であるが、子どもに絵本を読むうち、自分も絵本の世界に興味を持ち始めた。紹介する本の著者、柳田邦男さんは「人生には三度、絵本にふれる機会がある」といっており、それは子どもの頃親に読んでもらい、親になって子どもに読んであげ、中高年になり自分のために読む、ということである。本書は、「大人の心に響く優れた絵本八十冊」を選んで紹介したものであり、絵本とはいえ、動物やファンタジーのようなものばかりではなく、親と子どもの繋がり、生命の大切さなど、生と死という現実を見詰めることをテーマにしたものも紹介されている。絵本ならこういうテーマも読みやすいと思うので、興味のある絵本を選び読んでみてほしいと思う。



DATA
柳田邦男 著
平凡社
2006年11月刊

満月の夜、母を施設に置いて

看護学部 助手 蔭谷 陽子

元小学校教師であった著者が、アルツハイマー型認知症となった母を介護しながら、母への思いをつづった本である。介護をしていた3年間ほどは、介護をしながら母の病気を恥じる自分が存在していた。お店に行けば商品のシュークリームを手づかみして勝手に食べる、著者が店員さんに頭を下げる、その横でけらけら笑う母。ある時、母の排泄の後始末をしていたとき、抑えきれない激しい気持ちが噴き上げ、「おれの母さんなんだろう、しっかりしてくれ」と怒鳴ってしまった。なぜ母に優しくできないのだろう、他人だったら優しく出来るのに・・・という思いを詩に書いて表現されている。認知症により記憶が薄れていくなか、手帳に何度も何度も自分の名前も書き直しながらこれが本当に自分の名前なんだろうかという母の無念さが写し出されている「手帳」が残っているというが、認知症と診断された患者の「思い」もこの詩から読み取ることができる。そして、「思いやり」や「親子の絆」についても考えることができる一冊の本である。



DATA
藤川幸之助 詩、松尾たいこ 絵、
谷川俊太郎 対談
中央法規出版株式会社
2008年6月刊



DATA
山内一也 著
岩波書店
2012年4月刊

ウイルスと地球生命

看護学部 助教 山下 秀美

ウイルスといえば、インフルエンザや麻疹・風疹ウイルスなど病気の原因として頭に浮かんでくるが、そのウイルスに私たちは守られているというのである。

ウイルスは30億年前から生物と共生していた生命体であり、現生人類であるホモ・サピエンスが出現したのは、わずか20万年前である。様々な経路で人に感染し、人ウイルスになり、人の進化とともに人ウイルスも進化してきている。ウイルスにより、人やヒツジの胎児が産産まで守られていることも報告されている。そして現在、病気を治すウイルスの利用についての試みがされているのである。

この本には、病原体ではないウイルスの意外な役割が書かれている。



DATA
リチャード・ドーキンス 著・
日高敏隆ほか 訳
紀伊國屋書店
2006年5月刊

利己的な遺伝子 増補新装版

看護学部 助手 濱西 誠司

著者のリチャード・ドーキンスはイギリスの動物行動学者であり進化生物学者です。本書は30年以上前に出版され、世界中で大ヒットし、現在でも広く読まれています。彼は動物の社会行動を遺伝子の視点から考察していますが、本書で提唱されている「ミーム」は情報の伝達や文化の伝播を遺伝子になぞらえたもので、情報ネットワークの発達した現在、特に重要な概念となっています。

医療・看護・福祉といった実践的な学問を学ぶ学生にとってはモデル化した客観的な視点で事象を評価するという事はあまり馴染がないかもしれません。本書では社会生物学、遺伝学、進化論、ゲーム理論、情報科学といった分野について触れられており、大学生が一般書として読むには良書だと思います。

すべての障害者が 生きがいをもって 働けるようにするために —新しい時代に相応しい今後の 施策の在り方を巡って—



学長
社会福祉学部 教授 安井 秀作

DATA 安井秀作 著
エンパワメント研究所
2012年2月刊

ILO (国際労働機関) は、平成11 (1999) 年の総会において、すべての労働者 (当然のことながら、障害労働者も含まれる) が、『ディーセント・ワーク (働きがいのある人間らしい仕事)』を享受できるようにすることを、今世紀の政策目標とした。

我が国においては、障害者の働く場は、一般雇用 (民間企業、公的機関での雇用) と福祉的就労 (授産施設、小規模作業所などでの就労) という二元的な仕組みで構成され、それぞれに、施策の充実が図られてきた。しかし、一般雇用については、労働基準法をはじめとする労働関係法制に守られてはいるものの、労働の権利保障の仕組みは、必ずしも十分ではない。一方、福祉的就労にあっては、労働者とは認められず、労働関係法制の適用はなく、各種のセーフティ・ネットに守られることもない。

すべての障害労働者が、『ディーセント・ワーク』を享受できる諸条件の整備には、従来の二元的な仕組みからの脱却が求められるという視点に立って、今後の施策の在り方を提言する。

新しい日本の歌3



副学長
社会福祉学部 教授 古瀬 徳雄

DATA 古瀬徳雄 作曲
マザーアース
2011年11月刊

「新しい日本の歌3」には、鈴木賀恵の詩「ムーブメント」、永井ますみの詩「微笑んだ木」の2作品が楽譜になった。「ムーブメント」の大意は、彼から郵便が配達されて来るのを、待ちきれない、一刻も早く知りたいと、門で待つ若き娘の熱き思いを、b4つの変イ長調で書いた。心が充たされた気持になると周りの世界も動き出す。そこから下屬調に転調させ、こちらに笑顔を振り向かせた。「微笑んだ木」では、木々は生まれた場所のまま一生を終え、人間の勝手な自然破壊が起こっても移動できない悲しみと、駐車場になり、根は車の重みに耐え、排気ガスをまともに食らっても、春になると花が咲く、その健気な姿を表したつもりだ。しかし、それは最後の笑みとなるかもしれない。調性は受難、苦難の嬰種系 (♯) で巡り、「最後の笑み」は、♯4つのは長調としたが、できるだけ本位記号 (♮) を付け、重さを激減させて軽くしていった。

オペラや受難曲の主要な歌唱形態は、「アリア」 (詠唱) と「レチタティーヴォ」 (叙唱) からなる。「ムーブメント」は、アリアの旋律優位で季節のあたたかな風を吹かせ、「微笑んだ木」はレチタティーヴォで、沈黙の木にラルゴで語らせ、人間の反省の歌として、ドラマ性の発展の差異を描き出し、重要なメッセージを美的に融合して表現した。

子どもを取り巻く 看護と福祉の世界



看護学部 教授 湯舟 貞子
社会福祉学部 教授 佐伯 文昭

DATA 湯舟貞子・佐伯文昭・
岩本真佐子 著
ふくろう出版、2012年3月刊

この本は、毎日のように報道される痛ましい子ども虐待の実態を読者の方に知って頂くために、そして、なぜ子ども虐待は増え続けるのか、その要因と予防、さらに虐待を受けたり、不幸にして家庭で生活することができない子どもたちへの支援について、看護と福祉の視点からわかりやすく解説したものである。

Ⅲ部から構成され、Ⅰ部は「母と子のきずな」と題して、現代家庭と子育て、子育てに関する相談援助活動、母子関係と保育を、Ⅱ部の「子ども虐待」では、1で子どもの人権の歴史的背景、子ども虐待の実態について、2は関係機関の現状と課題、3では子ども虐待への対応を、更に4で虐待の予防、5では子ども虐待に関する法制度を述べている。

Ⅲ部の「子どもの養護」においては、虐待を受けた子どもや様々な理由により家庭での養育が困難な子どもたちへの支援である「社会的養護」について解説した。

この本を通じて、母性や母子保健の大切さを深く理解することができると共に、子ども虐待の実態と現在の支援体制について、また、虐待などの理由で不幸にして家庭で生活することが出来ない子どもへの支援である社会的養護の歴史的展望とその内容を詳しく知ることが出来る。この本を読まれた多くの読者の皆様が、親子がともに、そして子どもがより健やかに成長できる社会を築く一端を担われることを強く願っている。

異国でこころを 病んだとき —在外メンタルヘルスの 現場から—



社会福祉学部 教授 勝田 吉彰

DATA 鈴木満 編著
弘文堂
2012年1月刊

海外在留邦人、国境を越えた地に居を定める日本人の数は113万人とちょっとした政令市を超える規模になる。しかし、海外におけるメンタルヘルスを支える体制は充分なものにはほど遠く、救急事例化したり不幸な転帰をたどることも少なくない。

本書では、外務省専門官の編著のもと、海外における邦人のストレス要因やメンタル事例とともに、各地域の事情について紹介されている。この中で勝田は中国・北京の項を担当した。近年の急激なグローバル化や円高を背景に、中国には中小零細企業を含む製造業やサービス業の進出が増加し、それに伴い、海外生活など想定しない人生を送ってきた人々が工場移転とともに中国生活を余儀なくされ戸惑う「海外生活初心者」の割合が増えてきている。こうした条件下でのメンタルトラブル、また、それを支える体制などを紹介した。

その他、米国・タイ・カナダ・シンガポール・インドネシア・スリランカ・フィリピン・フランス・英国・スウェーデン・セネガル・アルジェリア・エチオピアといった国々についてもそれらの国に在住経験のある著者により詳しく紹介されている。一読いただければ幸いです。

私の出会った一冊

ひぐらしのなく頃に ～鬼隠し編～ 上・下

ある昭和の夏のお話、物語の舞台である「雛見沢村」に引越してきた少年と、その村の分校に通う「部活メンバー」の4人を中心に物語が展開していくミステリー作品。

この作品の主人公の少年、前原圭一はこの4年間に起こった雛見沢村での不可解な連続未解決事件と、雛見沢に伝わる「鬼隠し」と呼ばれる「綿流しの日に一人が死に、一人が消える」という謎の事件についての噂を聞き、軽い興味から事件について調べようとするが、事件の存在自体を否定する仲間に対して疑念を抱き始める。そして、綿流しの日を境に圭一は命の危険を感じるようになり、仲間を信じ切れなかった圭一は……。

この作品は鬼隠し編を含めた、謎が謎を呼び謎しか残らない出題編4編、そしてその謎を一つ一つ解明していく解答編4編で構成されるミステリー小説である。ある少女の奇跡により「雛見沢」で起こる惨劇が何年、何百年と繰り返されており、全ての話で共通点はあるものの、ささいな違いにより異なる結末を迎える。読み手はその各物語を見比べることで推理の手掛かりを得ていく。事件を繰り返すごとに、登場人物の繰り返しへの自覚や、物語への自己言及ともとれる発言があらわになり、真実が見えてくる。

この作品はどうあがいても絶望しかない状況の一つの「奇跡(努力)」により打ち破る物語となっております。もし何かに躓いてる時があればこの本を手にとって読んでみてはいかがでしょうか。



DATA 竜騎士07 著
講談社
2007年8・9月刊



ぼくのおすすめ!

社会福祉学部 1年 村上 裕亮



DATA 百田尚樹 著
太田出版
2006年8月刊

永遠の0 (ゼロ)

司法試験に落ち続けて人生の目標を失いかけている26歳の佐伯健太郎と、フリーライターの姉の慶子は母方の祖母の死をきっかけに、実は、実の祖父は宮部久蔵といい日本の終戦の数日前に神風特攻隊の一員として戦死していたことを知ります。自分たちの母の「実の父は私たち親子を愛していたのだろうか」という疑問に応えるべく宮部久蔵の軌道をたどり始めます。ところが、元戦友たちの証言から浮かび上がってきた宮部久蔵の姿は健太郎たちが予想もしないものでした。なぜ、「娘に会うまでは死ねない、妻との約束を守るために」と言っていた祖父は自ら零戦に乗り命を落としたのか……。日々死と対峙していた祖父を無為な生活を送る健太郎が調べていく中で戦争とは、人間とは、何なのかを一緒に考えさせられる作品です。

物語自体はフィクションですが、書かれている内容は実際に60数年前、日本で起きていたことで戦争を知らない私のような若い人にぜひ読んでもらいたいです。今後、また日本が戦争を起こさないためにも私たちができることは戦争でどんなことがおきていたのか知ることだと思います。読んだ後、きっと明日があることの大切さに気づくと思います。

わたしの
おきにいい!



看護学部 1年 高瀬 愛子

赤穂市立図書館の「おはなし会」に参加しています！

社会福祉学部 助教 三好 伸子

赤穂市立図書館では、毎週土曜日に子どもたちと保護者の参加できる楽しい「おはなし会」があります。専用の「おはなしのへや」があり、小さい子どもさんは、保護者の方と一緒に入り、一人で入れる子どもさんは、一人でその部屋に入り、楽しく、時にはしっかりと物語の世界を味わいます。昨年度までは、赤穂市立図書館の職員さんと、一般のボランティアさんとで運営されている「おはなし会」でしたが、今年度は、「学生さんもぜひ！」と誘っていただき、一緒に活動させていただくことになりました。

学生は、赤穂市立図書館で「絵本の読みかた」の研修を受けた後、大学内で絵本の読み方を練習したり、絵本の登場人物を動かして歌と一緒に演じられるようにペープサートを作ったり、エプロンシアター、パネルシアターを計画したりと準備し、9月1日（土）は、学生だけで企画した内容の「おはなし会」を開催しました。

学生は、子どもたちと保護者の前で絵本を読むのは初めてで、緊張して汗が出たり、硬くなったり、声が裏返ったり、いろいろな失敗をしました。そうした経験をしながら、活動を通して、絵本のもち方やめくり方、読む速さや声の大きさ、子どもたちとの受け答えなども身につけることがだんだんできるようになってきます。何よりも、一生懸命に準備し、「子どもたちとおはなしを通じて心を通わせることができた」と感じる瞬間が、保育の本質に近づける貴重な学びになっていくのではないのでしょうか。次回が楽しみです。



練習風景

東備西播定住自立圏形成推進協議会 図書館協力

実績
報告

平成23年4月より東備西播定住自立圏形式推進協議会の図書館協力が開始されました。

平成23年度に登録された人数は右表の通りです。

赤穂市	備前市	上郡町
59名	5名	5名

平成24年4月～7月にも30名以上の方が登録されています。

赤穂市、備前市、上郡町にお住まいで本学図書館の利用を希望される方は、以下の「[学外者の図書館利用について](#)」をご確認の上、館内カウンターにお越しください。

学外者の図書館利用について

関西福祉大学図書館では、教育・研究のために収集した図書資料を多くの方々に利用していただけるよう、学外の方にも閲覧・複写・貸出サービスを行っています。

利用できる方：18歳以上で本学の図書館資料を使って、研究、調査などをされる方。

登録に必要なもの：生年月日と住所が確認できるもの（運転免許証または保険証等）と印鑑

利用できる時間：平日9：00～19：00

長期休暇中などの開館時間は、「開館予定表」をご覧ください。

臨時に休館・開館時間を変更する場合があります。掲示等でご確認ください。

貸出：図書 3冊以内、期間 2週間
CD 3点以内、期間 3日間

パソコンの利用：館内設置のパソコンはご利用いただけません。（蔵書検索用のみ利用可）
個人所有のノートパソコンも持込みできませんのでご了承ください。

開館時間延長

学内利用者限定

開館時間を平日9時～20時から9時～21時に1時間延長しました!どうぞ有効に利用してください。

開館時間の詳細は開館予定表で確認してください。
※各種サービス時間にも変更が生じています。ご注意ください。

メディカルオンライン導入

学内利用者限定

2012年度より医療情報の総合Webサイト「メディカルオンライン」を導入しました。医学関連分野の文献を検索でき、必要な文献はその場で全文閲覧・ダウンロードが可能です。看護関連の雑誌はもちろん、社会福祉関連の雑誌も収録されています。レポート・論文作成の際の資料収集にお役立てください。

メディカルオンラインは、館内PCのお気に入りに登録しています。

CINAHLが CINAHL with FULL TEXTに なりました。

学内利用者限定

2012年度、看護学研究科が新設され、院生への研究支援として、海外の看護学関連の文献を検索対象とするデータベースCINAHLがCINAHL with FULL TEXTになりました。CINAHL with FULL TEXTになり検索できる文献が増え、さらに本文を入手できる文献が大幅に増えました。

電子ジャーナル導入

学内利用者限定

社会福祉学部・看護学部の洋雑誌について、今年度より電子ジャーナルを導入しました。タイトル一覧は雑誌架に掲示しています。

ご利用方法等、ご質問はカウンターまでお越しください。

情報発信

4月より入退館ゲートを新設しました。



入館の際、図書館利用者カードが必要です。忘れずにお持ちください。

リポジトリ開設

関西福祉大学リポジトリ



2012年4月、関西福祉大学リポジトリを開設しました。社会福祉学部の研究紀要や、ヒューマンケア研究学会の学会誌等の本文情報を掲載しています。
<https://kusw.repo.nii.ac.jp/>



情報発信

EBSCO社によるデータベース講習会

2012年5月9日(水)、EBSCO Publishing Japanの大野充章氏をお招きし、「CINAHL with FULL TEXT」、「Social Sciences Full Text」のデータベース講習会を開催、教員と大学院生の皆さんに多数ご参加いただきました。

データベース講習会は今後も定期的で開催予定です。今後の開催について掲示板にてお知らせしますので、どうぞ参加ください。

MyCARIN

学内利用者限定

皆さん、MyCARINはご利用いただけていますか？
MyCARINを利用すると、

- ・誰かが借りている本に予約が出来ます。
 - ・新着資料通知をPCメールで受け取れます。(分野等指定可)
 - ・貸出履歴の照会が出来ます。
 - ・現在借りている本の確認が出来ます。
 - ・利用可能な全てのデータベースへのリンクが貼られているのでアクセスが容易に出来ます。
- など、便利な機能満載！

MyCARINの利用にはIDとパスワードの発行が必要です。「利用したことない」というあなた、カウンターでIDとパスワードを発行してもらい、さらに図書館を便利に利用しましょう。

利用申請は図書館カウンターにお越しください。

図書館ガイダンスについて

図書館ガイダンスは受講されましたか？

今回も参加者の方から「これからの文献収集の役に立ちそうです(3年)」「図書館の便利な利用方法が分かりました(1年)」等の嬉しい感想をいただきました。

図書館ガイダンスは1・2年生編、3・4年生編とも個別の申込みを随時受け付けています。受講を希望される方は図書館カウンターにお越しください。

編集後記

名古屋・東海地区では平成24年度に『名古屋・東海地区における機関リポジトリコミュニティ形成の支援』として3回の連続研修会が開催されます。

今回、関西福祉大学図書館では2012年9月28日に名古屋大学で行われる第1回の研修会において「関西福祉大学リポジトリ」の2012年4月開設に至るまでの事例を発表させていただけることになりました。本学ではリポジトリ構築の計画を立ててから先生方の賛同を得るまでのプロセスがスムーズだったため、開設までの期間が他大学に比べ非常に短かったようです。研修会に参加されている方々の参考になる良い発表が出来ればと思っています。(N)

今年度より、開館時間の延長・入退館ゲートの新設・メディカルオンラインの導入等、新しい試みがたくさん始まっています。このように、図書館スタッフは少しでも学生の皆さんが利用しやすいようにしたいとも考えています。もっとこうしてほしい・ここが分かりにくいといったご意見があれば、いつでもスタッフに教えてください。

また、図書館が快適な空間となるために、皆さんそれぞれがルールを守り、お互いに快適に利用できるようにご協力ください。皆さんのご意見とご協力によって、より便利で快適な図書館にしていきたいと思います！

(S)